

大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F121310106034	設置等組織名	「建築デザイン創造学科」と「食農デザイン学科」からなる「グリーンライフ創造学部」を新設
大学名	岐阜女子大学	設置区分	私立		文化創造学部「デジタルフロンティア学科」を設置
学校種	大学	都道府県	岐阜	事業計画名	岐阜女子大学地域連携人材強化推進事業

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応		
フェーズ1	【共通事項】 共1-①令和6年7月 新学科設置準備室を設置する。（設置、継続協議） 共1-②令和6年12月 新設学科構想ごとに（仮）設立協議会を設置する。（設置、継続協議） 共1-③令和6年9月 新設学科構想ごとに全体統括をするコーディネーターを採用・配置する。（配置、検討） 具体的には 1-① ・令和6年12月 （仮）設立協議会への協力依頼企業の選出および協議会を設置。 ・令和6年9月～令和8年3月 ニーズに関する事項（ニーズ調査、視察含む）（継続） ・令和6年7月～令和8年10月 3つのポリシー、設置許可申請に関する事項（継続） ・令和6年7月～令和8年10月 カリキュラム、付随する取得できる資格（FD-資格など）、招聘教員（30%増）および教員組織等人事に関する事項（継続） ・令和6年7月～令和8年10月 地域で活躍する企業や自治体との連携協定に関する事項（継続） ・令和6年7月～令和8年10月 入学者確保のための広報、高大連携、入学者選抜、特別選抜に関する事項（継続） ・令和6年7月～令和9年3月 キャリア支援（就職先確保）に関する事項（継続） ・令和6年7月～令和9年3月 外部資金獲得に関する事項（外部資金獲得額が申請時の2.5%以上の上乗せを目標）（継続） ・令和7年2月～毎年 事業評価に関する事項（外部評価委員会） ・令和6年度～令和7年度 広報の実施（アンケート等）（継続） ・令和6年度中 その他運営、設置に関する事項（収容定員関係学則変更の届出）	【共通事項】 共1-①令和6年7月 新学科設置準備室を設置する。（～3月（継続）） 共1-②新設学科構想ごとに（仮）設立協議会を設置する。 ・令和6年12月 建築デザイン創造学科設立協議会開催（～3月（継続）） ・令和7年1月 食農デザイン学科設立協議会開催（～3月（継続）） ・令和6年12月 デジタルフロンティア学科設立協議会開催（～3月（継続）） 共1-③新設学科構想ごとに全体統括をするコーディネーターを採用・配置する。・・・それぞれに部会を設置 ・令和6年9月 建築デザイン創造学科 高村秀紀氏委嘱（～3月（継続）） ・令和6年9月 食農デザイン学科 福井博一氏委嘱（～3月（継続）） ・令和6年9月 デジタルフロンティア学科 鎌部 浩氏委嘱（～3月（継続）） 具体的には 1-① ・令和6年12月～令和7年1月 設立協議会への協力依頼企業の選出および協議会を設置する。 ・令和6年9月～令和7年3月 ニーズに関する事項（ニーズ調査、視察含む）・・・学生ニーズを把握するため、岐阜県教育委員会と連携し県下の国公私立の高等学校1・2年生にアンケートを実施（令和7年2月） ・令和6年7月～（継続）3つのポリシー、設置許可申請に関する事項を新学科設置準備室で検討 ・令和6年7月～（継続）カリキュラム、付随する取得できる資格（FD-資格など）、招聘教員（30%増）および教員組織等人事に関する事項・・・それぞれに部会で検討 ・令和6年7月～（継続）地域で活躍する企業や自治体との連携協定に関する事項・・・設立協議会委員委嘱と関連し協定内容について継続検討 ・令和7年2月 入学者確保のための広報、高大連携、入学者選抜、特別選抜に関する事項・・・オープンキャンパスの早期開催、公開講座の多様化、奨学金の見直し。 ・令和6年10月 キャリア支援（就職先確保）に関する事項 ・令和6年7月 外部資金獲得に関する事項（公募事業への申請） ・令和7年2月 事業評価に関する事項・・・外部評価委員会実施 ・令和7年2月 広報の実施・・・岐阜県下の高校に設立構想に関するアンケート（広報）を実施 ・令和6年10月 その他運営、設置に関する事項・・・収容定員関係学則変更届（令和7年4月施行） 学科新設等に先駆けて、母体の学科等の収容定員の減を届出 ・家政学部生活科学科 200人→160人（40人減） ・家政学部健康栄養学科 480人→320人（160人減） ・文化創造学部文化創造学科 640人→380人（260人減）	R6年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。	【課題と理由】 事業計画に対応する取組状況は、当初から現在第13回の新組織に関する検討会（新学科設置準備委員会）を開催し、それぞれ3つの新組織について多面的に検討している。また、同時に、地域との連携・地域の人材強化を目指しており、長年の課題である若者の他県への流出を軽減すべく、10月以降県教育委員会と折衝し令和7年2月に県下の国公立の高校及び私立高校の協力を得て高校1年、2年生を対象にインターネットによるアンケート調査を実施し、21,461名（うち、女子10,463名）から回答を得て、方向性について確認し、分析をし、ニーズに対応した新学科のコンセプトの改善に取り組んでいる。 また、その結果として高校生や地域のニーズに合致したカリキュラムを策定し、これを担当する大学設置基準に適合する教員数を早急に確立し、獲得していく必要がある。 しかし、それぞれのディプロマポリシーを実現するためのカリキュラム、それを支える教員の確保が課題となっている。 食農・建築デザイン・情報科学共に、専門的な教員が少ない上、他大学でもこれらの専門の教員を獲得している状況で、設置審並びに課程審の対応する論文を持っている等大学設置基準に適合する教員を獲得することが大きな課題となっている。 特に、農業と家政の複合学問については、ディプロマポリシーとカリキュラムの整合並びに専門教員の確保には苦慮している。 また、本学の新学科の特色化を図ることが重要で、新学科の特色を洗い出し、高校生の獲得できる魅力ある学科のコンセプトを随時ブラッシュアップしている。 【対応】 早急に企業へのニーズ調査並びにカリキュラムマップの作成など、趣旨とカリキュラムの整合性を図り、先の高校生を対象にしたアンケートをより具体化して再度調査する。 また、オープンキャンパス等による来学者への調査、さらに、業者による広範囲の調査も含めニーズを具体的に分析する。並行して、企業及び、先行大学等を視察し、ディプロマポリシーの具現策を策定する。
	1-② ・令和6年9月～令和8年3月 設置目的と社会ニーズの整合性および育成する人材に関する事項（ニーズ調査、視察含む） ・令和6年7月～令和8年10月 社会ニーズに合った人材を育成するためのカリキュラム構成と教員資質および教員組織に関する事項 ・令和6年7月～令和8年10月 地域連携、高大連携に関する事項の検討 ・令和6年7月～令和8年3月 実習フィールド（耕作放棄地の借用含む）や工場確保に関する事項（協力できる範囲含む） ・令和7年4月～令和8年3月 必要施設設備の整備計画に関する事項（計画指導・助言） ・令和6年7月～令和9年3月 キャリア支援（就職先分野）に関する事項への助言	1-② ・令和6年11月 設置目的と社会ニーズの整合性および育成する人材に関する事項（視察） ・令和6年7月～（継続）社会ニーズに合った人材を育成するためのカリキュラム構成と教員資質および教員組織に関する事項 ・令和6年9月～（継続）地域連携、高大連携に関する事項の検討 ・令和7年2月～（継続）実習フィールドや工場確保に関する検討・依頼 ・令和7年2月～（継続）必要施設設備の整備計画に関する事項（計画指導・助言） ・令和6年10月～（継続）キャリア支援（就職先分野）に関する事項への助言	○年度自己評価	リストから選択してください。	
	1-③ ・令和6年9月～令和9年3月 コーディネーター採用 ・令和6年12月～令和9年3月 新設学科構想ごとに（仮）設立協議会の全体統括 ・令和6年7月～令和9年3月 授業科目と教員資格に関する事項の助言・指導 ・令和6年7月～令和9年3月 3つのポリシー、カリキュラムに関する計画に係る事項 ・令和6年9月～令和9年3月 設置審に関する事項の支援	1-③ ・コーディネーター採用（令和6年度から） ・令和6年9月 建築デザイン創造学科 高村秀紀氏委嘱（～3月（継続）） ・令和6年9月 食農デザイン学科 福井博一氏委嘱（～3月（継続）） ・令和6年9月 デジタルフロンティア学科 鎌部 浩氏委嘱（～3月（継続）） ・新設学科構想ごとに（仮）設立協議会の全体統括（継続） ・令和6年12月 建築デザイン創造学科設立協議会開催（～3月（継続）） ・令和7年1月 食農デザイン学科設立協議会開催（～3月（継続）） ・令和6年12月 デジタルフロンティア学科設立協議会開催（～3月（継続）） ・令和6年7月～（継続）授業科目と教員資格に関する事項の助言・指導 ・令和6年7月～（継続）3つのポリシー、カリキュラムに関する計画に係る事項 ・令和6年9月～（継続）設置審に関する事項の支援	○年度自己評価	リストから選択してください。	
	前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和9年3月 グリーンライフ創造学部建築デザイン創造学科及び食農デザイン学科 認可申請 令和9年3月 文化創造学部デジタルフロンティア学科 認可申請				
フェーズ2			○年度自己評価	リストから選択してください。	
	2-① 令和9年4月 施設の新設、改修 2-② 令和9年4月 設備および機器の整備に関する事項 2-③ 令和9年4月 耕作放棄地の借用契約に関する事項 2-④ 令和9年7月 入学者募集 2-⑤ 令和9年4月～令和10年3月 外部資金獲得推進に関する事項 2-⑥ 令和10年2月 事業評価に関する事項（協議会を事業評価委員会に移行）		○年度自己評価	リストから選択してください。	
開設又は定員増	令和10年4月 グリーンライフ創造学部建築デザイン創造学科及び食農デザイン学科 定員増 令和10年4月 文化創造学部デジタルフロンティア学科 定員増	令和10年4月 グリーンライフ創造学部建築デザイン創造学科 10人増予定（入学定員30人、工学関係） 令和10年4月 グリーンライフ創造学部食農デザイン学科 定員増予定20人（入学定員100人、農学関係） 令和10年4月 文化創造学部デジタルフロンティア学科 定員増予定10人（入学定員40人、工学関係）			
フェーズ3			○年度自己評価	リストから選択してください。	
	3-① 令和10年～令和13年 成果報告会の実施（検証評価） ・令和10年～令和13年 教育研究内容の見直し（GX）およびe-Learningへの展開とメタバースとの連携（DX）、自己点検の実施（授業評価を活用）に関する事項 ・令和11年～令和13年 必要施設設備および機器のメンテナンス、更新に関する事項 ・令和10年～令和13年 連携機関、連携内容の強化、農地の契約更新に関する事項 ・令和10年～令和13年 開発商品等のブランド化、六次産業化に関する事業 ・令和10年～令和13年 入学者確保に向けた学生の募集の見直しと多様な学生の個別最適化への検討と対応に関する事項 ・令和10年～令和13年 外部資金獲得支援（外部資金獲得額が申請時の2.5%以上の上乗せ）に関する事項		○年度自己評価	リストから選択してください。	
			○年度自己評価	リストから選択してください。	
			○年度自己評価	リストから選択してください。	
定員減又は学部等の廃止	令和12年健康栄養学科廃止届出（令和10年募集停止）	令和10年家政学部生活科学科建築デザイン専攻学生募集停止の報告予定（入学定員20人、家政学） 令和10年家政学部健康栄養科学科学生募集停止の報告予定（入学定員80人、家政学） 令和10年文化創造学部文化創造学科デジタルアーカイブ専攻学生募集停止の報告予定（入学定員30人、文学）			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	岐阜女子大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
	確認の対象に該当しない <input type="checkbox"/> チェック	
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない <input checked="" type="checkbox"/> チェック	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	岐阜女子大学
-------------	-------	-----	--------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>【建築デザイン創造学科】これまで包括連携協定等を締結して連携を行ってきた地方自治体（岐阜県、岐阜市、山県市、各務原市等）とは、今後とも空き家リノベーション事業等で連携を拡充し、産官学連携による実践的なPBL等の場を確保していく計画である。また、現在本学全体として進めている授業のe-Learning化を活用して、より集中的あるいは中長期的PBL等の実習を実現する計画である。</p> <p>【食農デザイン学科】これまでに、JA（長良ぶどうの加工）や近隣市町（山県市+美濃山県元気ファーム；にんにく加工品）、地元企業（道の駅美濃にわか茶屋；仙寿菜の活用、体験農園みとか；収穫物を活用したカフェメニューの提案）と地域活性化にあたり連携や、近隣市町の住民を対象にした健康増進事業（山県市、美濃市）を推進してきたが、農場運営やスマート農業を見据えたJAや地域のマーケット（株式会社パロー）の農場、水耕栽培を先行する企業と連携をすべく、フェーズ1期間中に見直しを行い関係機関の強化と内容の拡大を図る計画である。</p> <p>【デジタルフロンティア学科】現在のメタバース・データサイエンス等の授業では、産官学連携で連携している岐阜県下呂市、及び電算システム㈱から講師を招聘して、DMOと観光DX、地域貢献に役立つメタバース構築など、現地実施タを含む地域のニーズに応じたPBLを実施しており、新設するデジタルフロンティア学科においても、岐阜県及び岐阜車体工業㈱、トーエネック㈱などの企業と連携して、PBLを含む科目を充実する予定である。</p>	<p>Bの多様な人材確保(育成)と関係する内容が多いが、本学は「課題を見出す力」に力点を置く教育を実施している。もちろん解決能力は必要であり、高校の総合の時間で身に着けた能力を、発見する力として生かすための多くの計画を企画している。</p> <p>それぞれの計画は、今回の計画でコーディネーターや協議会メンバーの協力より、量・質ともに進んできている。これらの実績を高校や企業等に広報し、学生確保につながる必要がある。</p>	<p>【課題】（理由）とその対応</p> <p>具体的な活動は進んでいるが、設置の趣旨（コンセプト）に対応したカリキュラムがまだ十分ではなく、また、本学の特色並びに独自のカリキュラムに精錬されていないため、具体的な企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施の体制が深化していない。今後、新設学科構想ごとに設立協議会において、企業の代表者にも参加いただいているので、その企業と連携した科目の整備を確実に進める必要があり、学生確保につながる広報が必要となっている。</p>

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>女子大学として、本計画では現在の多様な入学者を確保するため、それぞれ学科で以下のような見直し等を行う計画である。</p> <p>【建築デザイン創造学科】</p> <p>a. 入学者に求められる基本学力としての数学、物理の科目の導入、総合型選抜における課題の導入</p> <p>c. 出前授業については、工学系や理数系の学科を持つ高等学校を重点的に実施</p> <p>d. 建築関係の資格取得や最先端のDX・GXの知識に関するニーズに応えるため現在本学全体として進めている授業のe-Learning化を活用してのリカレント教育、リスキリングへの対応する科目を充実、科目等履修生、聴講生の受け入れを推進</p> <p>【食農デザイン学科】</p> <p>a. 入学者に求められる基本学力としての生物、化学、数学、物理の科目の導入、総合型選抜における課題の導入及び特別選抜</p> <p>c. 出前授業については、工学系・理数系や農学の学科を持つ高等学校を重点的に実施</p> <p>d. 長期履修制度や社会人履修証明プログラムの検討を進め、リスキリングとして食農教育ができる栄養教諭や子育て世代への安全・安心な食を提供できるバイヤー、商社でのマーケティングができる人材育成を科目等履修生、聴講生の受け入れて推進</p> <p>【デジタルフロンティア学科】</p> <p>a. 入学者選抜策においては、記試験とCBT、面接により、DX化を積極的に推進する意欲のある学生を選抜、面接では地域貢献に資するプロジェクトの提案などを出題し、発想力・創造力豊かな学生の選抜</p> <p>c. 教育DXとして、地域の初等中等教育段階の学校との連携、メタバースに小中学生が国内の遠隔地や海外の小中学生と交流を行う「遠隔協働学習教室」、不登校の小中学生用の「学びの部屋」、沖縄や岐阜県の観光を学ぶ「観光の部屋」等を設置</p> <p>d. メタバースの利活用、モーションキャプチャの利用、AIを利用したメタバース内での応答システムなど社会人の関心が高い分野での履修科目を充実、科目等履修生、聴講生の受け入れを推進</p>	<p>【建築デザイン創造学科】</p> <p>a. については工学系の先生を中心に内容を検討している。</p> <p>c. については進めている。</p> <p>d. については現在リスキリングに対応する科目等を全学的に検討を開始している。</p> <p>【食農デザイン学科】</p> <p>a. については工学系の先生を中心に内容を検討している。</p> <p>c. については農業高校をはじめとして進めている。</p> <p>d. については現在リスキリングに対応する科目等を全学的に検討を開始している。</p> <p>【デジタルフロンティア学科】</p> <p>a. については工学系の先生を中心に内容を検討している。</p> <p>c. については遠隔協働学習教室を設置し試みを展開した。</p> <p>d. については岐阜県、下呂市、企業と連携し地域に根差す人材養成を開始している。</p>	<p>事業計画に対応する取組状況は、当初から現在第13回の新組織に関する検討会（新学科設置準備委員会）を開催し、それぞれ3つの新組織について多面的に検討している。また、同時に、地域との連携・地域の人材強化を目指しており、長年の課題である若者の他県への流出増を軽減すべく、10月に降県教育委員会と折衝し令和7年2月に県下の国公立の高校及び私立高校の協力を得て高校1年、2年生を対象にインターネットによるアンケート調査を実施し、21,461名（うち、女子10,463名）から回答を得て、方向性について確認し、分析をし、ニーズに対応した新学科のコンセプトの改善に取り組んでいる。</p> <p>今後、早急に企業へのニーズ調査並びにカリキュラムマップの作成など、趣旨とカリキュラムの整合性を図り、先の高校生を対象にしたアンケートをより具体化して再度調査する。</p> <p>また、オープンキャンパス等による来学者への調査、さらに、業者による広範囲の調査も含めニーズを具体的に分析する。</p>

大学名	岐阜女子大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	330	215																		
		入学者数	人	141	135																		
	その他の学期	入学定員	人	***	***																		
		入学者数	人	***	***																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	330	215																		
		入学者数(B)	人	141	135																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.43	0.63																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	1320	1205																		
		編入学定員	人	0	0																		
		在籍者数(D)	人	772	718																		
		編入学者数	人	114	115																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.58	0.60																		

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定-6年	選定-5年	選定-4年	選定-3年	選定-2年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		15,649	12,305	21,327	21,945	50,979	26,696													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	19,640
本事業による助成金の額(F)	千円	396,299
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	29,548

特記事項

令和7年度入学定員減について、令和6年10月28日付けで文部科学省に変更届を提出し、令和7年4月から適用している。
編入生定員0名は若干名で、入学定員未充足分で学生募集を行っている。(主として、短大卒生の資格取得(管理栄養士受験資格)や(教員資格1種免)のための修学支援である。)